

神風



入営通知ハガキ
個人所蔵
平岡晃治氏の海軍入営にあたり、関係者に出したハガキ。昭和18年12月。平岡晃治氏宛。二枚ある。

特殊潜航艇
甲標的甲型150(搭乗員2名)
この特殊潜航艇は、平岡晃治氏に搭乗した特潜と同一型



特殊潜航艇乗員 平岡晃治氏
甲標的(こうひょうてき) 機型・千人針・写真すべて個人所蔵
平岡晃治氏は旧制豊津中学校(現育徳館高校)5年生だった昭和18年(1943)海軍飛行予科練習生(予科練)に志願。三重海軍航空練習隊分遣隊に入隊し、第13期甲種飛行予科練習生となったが、乗る飛行機がなく、大浦崎(広島県)で特殊潜航艇甲標的の丁型(蛟龍)の乗務訓練に従事した。「甲標的甲型」(展示機型)は魚雷を搭載した定員2名の特殊潜航艇で真珠湾奇襲攻撃時にも使用された。
平岡さんが訓練を受けた蛟龍は甲標的甲型の改良型で、本土決戦の主戦力として昭和20年5月に制式採用された。定員は5名で5日間の自力航行が可能だが、内部は狭く悪臭な環境で3日間が限度だったという。

たという。甲標的は敵艦の直近まで近づき、魚雷発射後に引き返すが、爆雷攻撃を受け、撃沈されることも多かった。平岡さんが訓練を受けた大浦崎では人間魚雷「回天」の訓練も行われており、回天乗員になった回数も少なくない。
蛟龍への乗務が決まり、呉(広島県)に再観と2歳の妹が重宝に訪れた際、手渡されたのが「武運長久」「平岡晃治」と書かれた千人針。戦場での幸運を祈り、生還を願う千人針の由来を母が話してくれたという。縫い付けた5銭硬貨は4銭(死縁)を超えて10銭は9銭(苦戦)を乗り越える。出撃命令を待つ中、昭和20年8月15日の終戦を迎えた。

氏神様御守



しょうぎばん 二まはこ
将棋盤と駒箱
個人所蔵
この将棋盤は海上町上別府で呉服屋を営んでいた方の家に伝わるもので、当時下宿していた兵士たちは将棋などで果の間の休息を楽しまれた。戦地へと向かった。残された写真の兵士達もこの家に下宿しており、特攻隊等で戦死したという。



陸軍の水筒
本村武蔵資料館所蔵

飯盒
本村武蔵資料館所蔵



砲弾・機関銃実包
本村武蔵資料館所蔵
五よまつは27mm機関銃実包(射撃用)。右端は94式山形砲弾。左は30式歩兵砲弾(1.9mm)と31式歩兵砲弾(1.9mm)。31式歩兵砲弾は明治29年(1896)に陸軍に制式採用。歩兵隊の主力として東洋戦争中、広く使用された。

ビルマで選兵士の所持品飯盒と砲弾
本村武蔵資料館所蔵
イギリス領ビルマ(現ミャンマー)とその周辺地域を巡り、昭和18年(1943)から昭和20年(1945)の新戦線まで、日本軍・ビルマ国民軍・中国国民党軍・イギリス軍・アメリカ軍・中華民国軍とが戦った。連合軍から中華民国軍への物資輸送ルートを開つたため、ビルマ作戦を実施するが、失敗に終わり、約18万人の日本兵が戦死。大半は餓死といわれる。
広島出身兵士は昭和22年6月に日本へ帰還した。

陶器製手榴弾
本村武蔵資料館所蔵
大戦末期の食糧不足の年製された。有田の産物。昭和23年に製作。



軍票(軍用手票)
本村武蔵資料館所蔵
軍が戦地での物資調達のため発行し、現地通貨と強制的に交換させた。日本の敗戦により通貨としての価値はなくなった。日本国内で流通していた紙幣の版を転用して製作。

アルマイト製弁当箱
本村武蔵資料館所蔵
「食糧増産運動」は小倉製菓工場内にあった陸軍関係者の生活用品の供給などを行う福利厚生施設。



陸軍札式
航空自衛隊陸軍部所蔵
陸軍での勤務記録簿をまとめた。